

山城高校での二年

第二十一代 藤 井 隆 至

京都三中・山城高等学校創立百年おめでとう存じます。この大きな節目を、新しい校舎キャンパスでお迎えになるのもとても嬉しい事です。益々のご発展を願ってやみません。

私は、平成十年四月から十二年三月までの二年間を校長として山城高校にお世話になりました。百年の歴史の中の二年。思えばほんの一瞬のようにも感じられますが、辞して五年が過ぎました今も、おおらかで暖かく純粹闊達な校風に感じ入った事は、きっちり私の体の中に残っているような気がしています。

以下記念誌部長様からのお申し越しに従い、この二年間の思い出などを記して創立百年に寄せる言葉とさせていただきます。

私は、山城高校にお世話になりますまで、初任時に教員を数年やらせて頂いただけで役所勤めが長く学校勤務の経験は一桁でした。そして定年退職前に・・・いわば「キセル」教員とし

て赴任したような所がありました。それだけに伝統校への勤務は不安もありました。しかし、そんな不安もすぐに消しとんでしまいました。教職員、同窓会、保護者、地域の方々・・・どなたも好意をもつて迎えて頂きました。それぞれの方にお思いの事も多かったと思いますが、大過なく終わらせて頂きました。感謝しています。そして何よりも若く元気で屈託のない生徒達・・・。いろいろなエピソードや思い出があります。若い教員時代には解らなかった「生徒が可愛い」と言う感情が湧いて来るのが自覚できました。教職を志すものにとつて当たり前の事かもしれません。はずかしながら、あの年になって生徒さんたちに教わりました。

学校経営上のことではやはり、校舎改築の事と定時制の閉製の事が思い出されます。校舎改築は府教委の主導による専門家のキャンパス検討の委員会開催から工事実施前の旧グラウンドでの文化財発掘調査を経ていよいよ着工と言う所までで終わりました。その間、若い生徒達が溢れるエネルギーを昇華する場所がなく学校生活全般に支障が出て来ましたが、中でも体育の授業、運動部の活動場所の確保には担当科や顧問の先生方にご苦勞をおかけしました。隣の医大施設の借用、佛大や府立大グラウンド借用してバスでの二時間続きの授業、運動クラブ活動のための企業施設の借用、桂川河川敷グラウンドの借用など先生方が

汗をかいてやっていただきました。それでも寒い日の夕刻暗くなり始める頃、馬代通りの生垣付近を見回りにしている時でした。下の方から二人の運動部の生徒がそれぞれボールを乗せた自転車にまたがりふらふらしながらこぎあがってきます。学校へ戻る途中でした。大声で話し合っていました。一人が言いしました。「疲れたね・・・もうちょっと近かったらええのにね・・・」と私に気づかず話しながら通り過ぎて行きました。皆が辛い時でした。また、こんな事もありました。就任の年、体育祭の開会式で「このグラウンドでの体育祭は今年かぎりとなる」と通告しました。ところが次年の夏一人の三年生が「グラウンドの文化財調査は今休んでいる、秋の体育祭は本校グラウンドでやらせてほしい」と校長室へやってきました。そう言えば、グラウンドは大きく掘られていましたが、確かにこのところ関係者の出入りは少ない。生徒部と日程などを相談して府教委に一時グラウンド埋め戻しをお願いすることにしました。多少のやりとりの後了解が得られました。職員会議でも了解を得て、生徒に今年の体育祭も本校でと全ホームルームで伝達してもらいました。あの子をはじめ数人の三年生が礼を言いに校長室にきてくれました。そして皆で埋め戻しの柔らかいグラウンド固めに汗を流してくれました。三年生がとっても喜んでくれて、思い出深い体育祭となりました。

定時制の閉制は私の赴任時既に三年目に入っており三・四年生だけが在籍していました。次年の四年生だけになると何をすゝるのも少人数でますます淋しそうな感じでした。

それだけに最後のセレモニーは、先輩諸兄姉や保護者などにご案内して大勢お越し頂き現職教職員に在校生も協力して心をこめて催しました。「月下に学べり」と刻した記念碑を旧校門前に建立し記念誌を残して、六十四年にわたる勤労学徒の学舎としての使命を終えました。山城高校の歴史の節目に立ち会わせていただきました。

最後に私が現職の時、山城高校宣揚のためのキャッチフレーズとしていました

やましろ の「や」は安らぎの「や」、

やましろ の「ま」は真心の「ま」、

やましろ の「し」は真実の「し」、

やましろ の「ろ」はロマンの「ろ」

を掲げさせて頂き、新しい校舎で新しい歴史を力強く踏み出される皆様方へのエールとさせていただきます。合掌